

エコサイクル

汚染した土壌、浄化して次世代へ

酸化剤でパークを分解

〈東京都〉(株)サンランドリー

クリーニング工場の移転あるいは廃業により土壌を売却するというケースがあるが、ここで問題となるのが地下の土壌汚染だ。パーク溶剤等を使用してきたクリーニング工場は土壌調査を行い、法に基づいた浄化対策を取らなくてはならない。浄化は工法によっては費用がかさみ、工期も長くなることもあり、次の一歩を踏み出せないという事例も少なくない。

工場老朽化で移転を計画

サンランドリーは昭和26年創業。当初はシートや白衣など白物を中心としたクリーニング店だったが、昭和40年代、海外業界視察を機に高級志向へと転換。以来、高度な技術による高級外交店として業界内でも広く知られるようになった。

東京都心の四ツ谷で数十年にわたり営業してきた(株)サンランドリー(宮田雅道代表取締役)は4年前、建物の老朽化により工場を移転。その際に土壌からパークが検出されたため浄化措置を行った。浄化工事は、これまで全国500か所以上の工場用地の土壌浄化を手掛けるエコサイクル(株)(本社・東京都中央区、シユリハリ・チャンドラ直し)や移転の



▲浄化した跡地はマンションに



宮田雅道社長

工場移転では、まず四ツ谷の工場を廃止する届出を行ったが、その際に土壌汚染の調査義務が生じた。同社では、早くからフッ素系溶剤を使用し、最近ではソルカン溶剤を使っているが、昭和の時代はパーク機も稼働していたという。

何十年も前のパーク検出

「私の入社(平成3年)より前なので、パークの使用は何十年前のことだが、やはり検出された(宮田社長)。調査は、10m以上の深さまで調べたが、比重の重いパークは地中深く浸透しており、8mあたりまで汚染が確認されたという。」

費用や期間で工法を選択

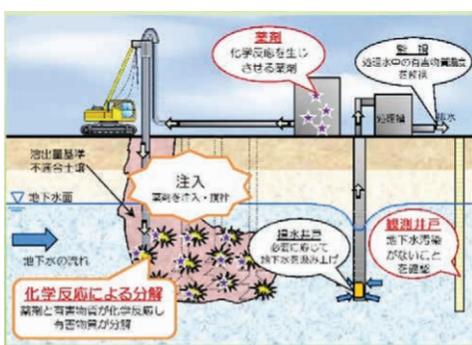
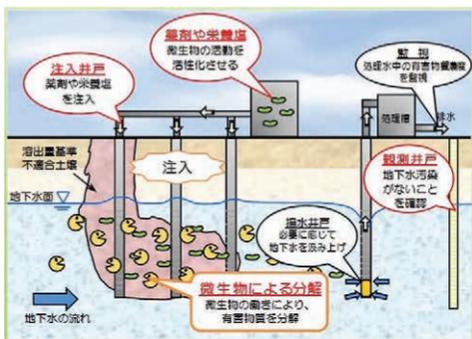
土壌浄化の方法は何社かにあたって検討。費用や工事期間などを総合的に判断してエコサイクルに依頼した。「時間をかけて浄化するならもう少し安くできる方法もあったが、あまり時間をかけてもよくなかった」という。エコサイクルでは、これまで土壌汚染対策で主要工法であった掘削工事も手掛けるが、自社開発のバイオ浄化剤を活用した浄化技術に定評がある。浄化剤を流し込み微生物の力を活用して分解・浄化する方法や、酸化剤の力で汚染を分解する方法で、掘削工事と比べて2分の1〜3分の1程度の土壌に吸着した汚染を洗

い落とし、揚水し回収することで短期間に濃度を低減。その後バイオレメディエーションで浄化完了させる。 ●化学酸化分解 酸化剤(中性フェント

浄化後はマンション建設

これらの工法のうち、しつこくなる可能性もあるし、同社では短期に浄化可能な化学酸化分解を選択して良かった」と語った。 エコサイクルでは、様々な条件に適した工法により土壌浄化を行うほか、親会社であるオリックスのネットワークを活かし、浄化した不動産の有効活用の提案も行い、

浄化費用の捻出が厳しく移転や廃業をしたくてもできない、土地を売りたいくても売れないというケースもあるようだ。が、そうした場合も同社が売却先を見つけて、買い手の負担で浄化する方法もあるようだ。 土壌浄化の問い合わせはTEL03・6661・1875まで。



▲バイオ処理(上)と化学酸化のイメージ



▲サンランドリーの土壌浄化工事

工事は約1ヵ月で完了。浄化後に建てられたマンション1階は、サンランドリーの本店とテナント。2階は社長の住居で、3〜10階は1LDK〜3LDK(12戸)の賃貸マンションになっている。仮設営業から戻った本店はコロナの影響があったものの順調で、売上も伸びているという。 宮田社長は、「自分の代

私たちは土壌汚染のプロフェッショナルです

- ・汚染対策費用が捻出できるか不安...
- ・パークを使っていたから汚染されているかも...
- ・工場移転したいけど汚染があったらどうしよう...
- ・土壌汚染対策後の土地活用も相談したい...

土壌汚染のお悩み
低コストで解決いたします。

環境大臣賞 受賞